

# 天野爲之先生雜誌掲載論文目錄(一)

東 洋 經 済 新 報 (1)

西田長壽  
高野善一  
杉本富士夫

ま え が き

昨年の秋、天野爲之先生の生誕百年記念展を行なった際に、同博士の雜誌掲載論文目錄を作成して本紀要にかかげることを決めた。

かくてわれわれは、まず、『東洋經濟新報』(以下たんに新報と呼ぶ)をとりあげた。その理由は、同誌こそ、博士の經濟論客としての真面目を発揮したものであり、同誌が明治三〇年代における最も充実した經濟雜誌であり得たのは主として博士の主張が時宜に適したためであり、同誌今日の盛大も、その基礎は實に博士が同誌を主宰した時におかれたといっても過言ではないからである。(天野博士の人や主義、『東洋經濟新報』の創刊・発展の歴史、主張については、浅川榮次郎・西田長壽共著『天野爲之』や、『東洋經濟新報言論六十年』等を参照されたい。)

ところで、博士時代の『東洋經濟新報』についてみるに、毎号の社説数は一、二に止まらない。しかも博士の署名は、一論文に限られているといつてよく、他は無署名である。一方において、新報誌上の博士の論文を集めて公刊された『經濟策論』(以

天野爲之先生雜誌掲載論文目錄(一)

下たんに策論と呼ぶ」と、新報の社説を比較して見ると、新報誌上では無署名であって、策論に収められているものもあれば、署名論文で策論に収められなかったものもある。ここにおいて、新報誌上、博士起稿の論文を的確に決定することには大きな困難があることがわかる。

しかし、さらに、別の面から考えてみると、大体において天野時代の同新報記者は、殆んど全部天野門下であったという事情から、博士以外の記者の手になる社説と雖も、恐らくは、その悉くに博士が眼を通してのち発表したものであろうという推察もできる。このように考えてくると、『東洋經濟新報』誌上の署名社説、および無署名であって、のちに『策論』に収められたもののみを採録することも、脱落の危惧なきを得ない。況んや『策論』の緒言において、『東洋經濟新報』誌上の自稿論文を悉く収録したものでないことを明らかにせられているにおいておやである。

以上のような考えから、われわれは、博士が同新報を引き受けた明治三〇年三月第四八号から、社説の筆を絶った明治四〇年九月五日第四二五号に至るまでの社説を全部網羅して掲げることとした。同時に署名その他によって明確に博士の稿と断じられるものには、凡例にことわったように、○印を附して、その旨を明らかにした。

そこまで方針を拡大した以上は、さらに一步を進め、本目録集の表題の趣旨には少しくされることになるが、新報創刊以来の社説を悉く列挙した方がよいと考えるに至った。それは、明治三〇年代の新報はさきにも一寸ふれたように早稲田出身者で固められていたということと、新報は実に明治三〇年代における最有力、最優秀の經濟評論雜誌であったというような事情から、このような目録が、より多く学界に貢献するのではないかと考えたからでもある。あえて諒承を乞う次第である。

なお、本目録の作成については杉本が当たり、『天野爲之』の著者の一人である西田の作成していた目録をも参照した。終わりに、本館員佐藤嘉子氏の協力を得たことをここに記して、感謝の意を表したい。

(三七・一一・一五)

## 凡 例

一、まえがきにあるような考えから、本目録には、明治二八年十一月十五日（第一号）から明治四〇年九月五日（第四二五号）に至る全社説を収録した。しかし紙数の関係から回を別けて分載することとなり、今回は第一号から第一二六号（明三二・六・五）までを掲載した。

一、社説欄で明らかに天野先生の執筆になるものには○印を附し、その他の執筆者名のある場合は、それを「」で包んだ。

一、社説欄以外における天野先生の論文には×印を附した。これは社説目録としての趣旨を生かすためである。

一、標題はすべて本文のそれによる。但し明らかに誤植と思われるものは訂正した。

一、目録の性質上また印刷の関係から、当用漢字によった。

一、なお、同じ天野先生の筆になる牛中漫言（いわば浴衣がけの経済時評で明治三三年一〇月より同誌に連載、初めはたんに「漫言」は、一括して「牛中漫言目録」とし、追って本誌に掲載の予定である。

第一号 (明六・二・二五)

東洋經濟新報発行の趣旨〔町田忠治〕  
海軍と実業家  
物価の現在及将来  
× 償金問題

第二号 (明六・二・二五)

物価の現在及将来 (承前)  
我国将来の銀行制度如何

第三号 (明六・二・二五)

興業銀行を論ず  
近年に於ける物質的進歩

第四号 (明六・三・二五)

東洋商業地理協會を設立するの急務  
独逸国外國貿易の一大原動力

第五号 (明六・三・二五)

償金回送法を論じて正貨準備に及ぶ  
商業社会と武士道

第六号 (明元・一・二五)

明治二十九年の金融如何  
第九議會  
貨幣制度調査會報告を読む

第七号 (明元・一・二五)

酒稅改正私見  
民力休養  
未收償金

第八号 (明元・一・二五)

財政計畫を評す  
太平洋の関門  
事業公債と未收償金

第九号 (明元・三・二五)

勸業農業二銀行法案の排商主義  
農業者の現状一斑  
清國外債の前途

第一〇号 (元・三・二五)

二十三年と二十九年  
地租と酒稅  
米國財政の現状  
農工銀行の貸附法

第一一号 (明元・三・二五)

朝鮮事變を論じて英國の東洋政略に及ぶ  
歐洲航路の開始  
米國財政の現状 (承前)

第二二号 (明二元・三・二五)

銀貨の騰貴  
金銀の平等準備  
第二回清國償金  
幣制の革命は何れの日にか到らん  
〔兼子初太郎〕

第二三号 (明二元・三・二五)

國家經濟上より日本銀行課稅法案を論ず

洲の爲めに魚を驅る者  
調和的課稅法  
朝鮮貿易の前途を憂ふ  
駐清英國新公使

第二四号 (明元・三・二五)

日清貿易の前途  
輸出入の不平均  
衆議院は排商主義を取れり  
生絲貿易の不振

第二五号 (明元・四・二五)

二十九年年度予算  
農工銀行を托用する勿れ  
今後の金融

第二六号 (明二元・四・二五)

積立金問題

英独に於ける銀貨問題  
我国紡績事業の既往未来

第一七号 (明元・四・三五)

二十九年年度予算と通貨との関係(上)  
清国の関税年報を読む  
台湾の経営

我国紡績事業の既往未来(続)

第一八号 (明元・五・五)

勸業農工二銀行の主義に反対する  
ものの謬見

二十九年年度予算と通貨との関係(下)  
英国複本位論の真相閣下院の決議案

第一九号 (明元・五・二五)

今や我国に一人の金貨論者なし  
償金取寄委員に望む

航海奨励法の一大欠点附当業者に  
警告す

製鉄事業の振興を希望し併て企業  
家に告ぐ〔兼子初太郎〕

第二〇号 (明元・五・三五)

帝室財産  
貿易の逆勢と償金取寄法  
速かに航海奨励法を改正せよ

米国大統領改選と米國貿易

製鉄事業の振興を希望し併て企業  
者に告ぐ〔承前〕〔兼子初太郎〕

第二一号 (明元・六・五)

我が金融市場の前途(公債を外国  
に売出すの件)

孤立銀行の弊害  
支店制度を助長せよ

第二二号 (明元・六・二五)

京釜鉄道は世界の郵便線路なり  
彼我の工業(列国の石炭消費高に  
就きて)

三たび航海奨励法に就きて  
臨時議會を開設せよ  
為替信用状

第二三号 (明元・六・三五)

日英の農業法果して相同しき乎  
(誰か勸業農工銀行を無用と云ふ)

工商の撰挙権を拡張する一方案  
我国の鉄道に関する英國公使の報告

第二四号 (明元・七・五)

労働時間問題(上)  
輸入超過の真相と貿易の前途  
会長、社長、取締役、支配人

第二五号 (明元・七・二五)

労働時間問題(下)

金利の低廉は必ずしも国の利にあ  
らず(外交と金利との関係)  
銀行建築法

第二六号 (明元・七・三五)

所謂機關銀行  
日清通商条約と製造業  
財産目録

米國幣制の弊害を論じて其貨幣政  
策の将来に及ぶ〔兼子初太郎〕

第二七号 (明元・八・五)

日本銀行總裁の勸告書を読む  
外人に我公債を排斥せんとするも  
のあり

國家の怠慢  
米國兩党の勝敗と日米貿易

第二八号 (明元・八・二五)

我國鉄道の将来に横はる一大困難  
倫敦に於ける我公債と米國經濟界  
の關係

正貨準備に関する謬見  
米國幣制の弊害を論じて將來の貨幣政  
策に及ぶ(三号の続)〔兼子初太郎〕



最近數ヶ年間上下半季貿易対照表

第二九号 (明元・六・三)

三億八千万円の償金中、輸入超過に充つべき正貨僅かに五六千万円に過ぎず

清国には未済償金に対する財源ありや  
清国に於ける製造工業の前途  
雇主と職工との関係〔兼子生〕

第三〇号 (明元・九・五)

償金、国庫金及び金融の關係  
製造品課税問題に関する清国の近報  
米国の幣制問題 負債の膨脹  
幣制の紛乱

第三一号 (明元・九・二)

中央銀行の日歩改正  
償金預合に関する謬見  
日本郵船会社は何故にシャトル線を  
を扒ひし乎

米国の幣制問題 負債の膨脹  
幣制の紛乱 (承前)

第三二号 (明元・九・五)

米両党の勝敗の我国に及ぼすべ  
き利害 (上)

恐慌の必来亦毫も憂ふるに足らず  
我国蚕糸業の発達を敍し当業者の  
急務を論ず〔兼子生〕

第三三号 (明元・二・五)

新内閣の財政方鍼如何  
積極の方鍼を執れ

米両党の勝敗の我国に及ぼすべ  
き利害 (下)

第三四号 (明元・二・三)

銀行の独立

貯蓄銀行及び其預主に警告す  
金一銀十六の幣制実行し得べきや  
〔兼子生〕

第三五号 (明元・二・三)

金融の前途と施政方鍼  
世襲財産制度の現状

世襲財産の經濟上に及ぼす弊害  
本年の米作果して如何  
如何にして貿易の弊風を矯正すべ  
きか〔鶴岡伊作〕

第三六号 (明元・二・五)

公債の種類を統一すべし

外資輸入に関する謬見  
港灣修築の急務

貿易の不公平に就て当局者に望む  
〔兼子生〕

第三七号 (明元・二・五)

創刊一周年に際して

将来の収入方案附地租増率案を難す  
取寄せたる償金の所在  
我国は工業行政を欠く  
金党勝利の結果に就きて

第三八号 (明元・二・五)

我海外航路の消滅近きに在らん  
我造船業の発達覚束なし

近時我国に於ける鉄道の発達(上)  
米国の財政整理と万国貨幣會議  
〔兼子生〕

第三九号 (明元・二・五)

将来の収入方案附地租増率説を難  
す(下)

将来の地方税  
酒税率に關し当局者に問ふ  
近時我国に於る鉄道の発達(下)

第四〇号 (明元・二・五)

方今我国に於ける物価騰貴の原因  
に就きて

本邦貿易港の資格  
マツキン  
レー氏のレッタ、オフ、アクセブ  
タンス(上)

#### 第四一号 (明元・二・三五)

通貨益々増加すべく物価益々騰貴すべし

預金の決済は却りて通貨を増加すべし  
通貨の増減は自然に任すべし

禁停制の存廢は国民の品格問題なり  
産業組合に就いて (上)

#### 第四二号 (明三・二・二五)

予算概論

職工誘拐問題

貿易市場たる横浜と神戸の地位

日本銀行營業報告の公示に就きて

産業組合に就て (中)

マツケン  
レー氏のレター、オフ、アクセプタ

ンス (下)

#### 第四三号 (明三・二・二五)

台灣財政の独立自営業して何れの日ぞ

第四回万国貨幣會議の運命如何

明治廿九年經濟小史 (其一)

婦女及幼者の工場就役に關し世の

工業家及当局衛生家の注意を促す (西内青藍)

#### 第四四号 (明三・二・二五)

輸入超過の主因は通貨の膨張に在らず

天野爲之先生雜誌掲載論文目錄 (-)

三十年度の通貨及び物価  
公債償還額の金融市場に及ぼす勢力に就きて

大に補助貨を發行すべし

明治廿九年經濟小史 (其二)

#### 第四五号 (明三・二・二五)

今後の金融

財産目録と資産勘定

明治廿九年經濟小史 (其三)

各国紡績業の消長を論ず (兼子初太郎)

#### 第四六号 (明三・二・二五)

金貨問題

金貨論者に二種あり

会社の利益配当と物価の關係

産業組合法に就て (下)

明治廿九年經濟小史 (其四)

#### 第四七号 (明三・三・二五)

金貨制度實施の方法に就きて

金銀価變動の標準

今後の我が外国航業を奈何

明治廿九年經濟小史 (其五)

金銀の比価と東西物価の趨勢

(西内青藍)

×諸大家幣制意見 (其二)

#### 第四八号 (明三・三・二五)

幣制改革論

補助貨幣修正意見

明治廿九年經濟小史 (其六)

金貨制施行に關し世人の注意を促す (兼子初太郎)

×桜田君の演説を聞く

#### 第四九号 (明三・三・二五)

関税問題

金貨本位の我が經濟社会に及す影響如何 (一) (関輪正路)

金貨制施行後の外国為替相場附其算出法 (上)

印度の慘狀に就て邦人に望む

明治廿九年經濟小史 (其七)

幣制改革の銅鉄貿易に及ぼす影響

(鶴岡伊作)

#### 第五〇号 (明三・四・二五)

如何にして六千七百万円の公債を募るべき

金貨制度と台灣銀行との關係如何

金貨本位の經濟上に及ぼす影響如何 (二) (関輪正路)

金貨制度施行後の外国為替相場

附其計算法 (承前)

第五一号 (明三〇・四・二五)

。宜しく公債を整理すべし

日本勸業銀行定款を読む

金貨本位の我が経済上に及ぼす影響如何 (三)〔関輪正路〕

第五二号 (明三〇・四・二五)

。本邦銀行の一大欠点

通貨及金融の前途に関する三種の觀察

銀行会社の合同

銀貨国に対する為替相場算出法

金貨本位の我が経済社会に及ぼす影響如何 (四)〔関輪正路〕

第五三号 (明三〇・五・二五)

。日本銀行支店の増設を望む

勸業銀行株式の前途

本邦鉄道の現状を論じて鉄道會議に及ぶ (上)

五月以後の金融市場

第五四号 (明三〇・五・二五)

。宜しく中学科程に経済科を加ふべし

本邦鉄道の現状を論じて鉄道會議に及ぶ (中)

小保険会社分立の弊を論ず  
清国製造税の前途

第五五号 (明三〇・五・二五)

。日本銀行個人貸問題

今回輸出したる公債相場に就きて

公債の売出は金融を緩和すべきや

本邦鉄道の現状を論じて鉄道會議に及ぶ (下)

鉱毒問題の落着 (鉱山と森林の關係)〔西内青藍〕

第五六号 (明三〇・六・二五)

金融市場

。貧民銀行の必要及其方法

本邦機業一斑

農工商務省

我国地方財政の前途奈何〔西内青藍〕

第五七号 (明三〇・六・二五)

鉄道局其他鉄道業者の反省を望む

低利公債を発行すべし

金貨制度の実施困難ならず

第五八号 (明三〇・六・二五)

。比の資本の欠乏を如何

数年後の我国銀行業

本年十月以後の物価

二十年来物価騰貴の大勢

鉄道に自用車輛を許すの議〔関輪正路〕

中学制度調査委員会に望む

第五九号 (明三〇・七・二五)

金融市場

。日本勸業銀行の将来を憂ふ

銀行の合同と独立

通信事業の現状一斑 (一)

第六〇号 (明三〇・七・二五)

東京大阪二市に於ける銀行業発達  
の現状

大阪に於ける銀行合同の結果如何

。所得税を論ず

酒税なる哉酒税なる哉

通信事業の現状一斑 (二)

第六一号 (明三〇・七・二五)

。台湾幣制問題

酒税は我国の一大財源なり

東京市政と交通機關

通信事業の現状一斑 (三)

第六二号 (明三〇・八・二五)

金融市場



制限外発行は益々通貨を膨張せしむべきや否や

。我国に於ける備者对被備者の関係信用壊敗の結果を如何  
通信事業の現状一斑(四)

#### 第六三号 (明三・八・二五)

。地租の増徴断じて不可なり

東京市内鉄道は民設を可とす

銀価下落の幣制改革に及ぼす影響

如何

海外より輸入する円銀案外に多からざるべし

農商工高等会議は如何に之を組織するや

#### 第六四号 (明三・八・二五)

金融の前途

正貨準備に関する誤解

。通貨の分量は自然に放任すべし

銀の下落と其生産費

我国銀行業の現状(上)〔西内青藍〕

物価の高低果して如何〔神川漁長〕

#### 第六五号 (明三・九・二五)

本月の金融市場

円銀引換の期限は大に短縮せざるべからず

。地租増徴問題に付きジャッパン・タイムスに答ふ

今度の米価

我国銀行業の現状(中)〔西内青藍〕

本邦鉄道に関する英国公使の報告

#### 第六六号 (明三・九・二五)

速かに円銀の通用禁止を公布すべし

物価の昂低に關し東京經濟雜誌記者に問ふ

今後

。今後の物価を左右すべき諸原因工場条例は如何に制定すべきや

我国銀行業の現状(下)〔西内青藍〕

仏国及白耳義に於ける公立質店

#### 第六七号 (明三・九・二五)

新たに整理公債条例を制定すべし

金融調和策

金貨制度に関する二種の謬見

物価下落の誤解は円銀と墨銀を混同したるに在り

我国海運業の現在及将来(一)

東洋貿易の前途

輸入超過憂うるに足らず〔原田駒之助〕

#### 第六八号 (明三・一〇・二五)

本月の金融市場附何放に諸銀行は日歩を引上げたるか

銀行業の盛況永續すべきや

再び円銀引換期限の短縮に就きて

今後の為替相場変動点

我国海運業の現在及将来(二)

東京經濟記者の自白

#### 第六九号 (明三・一〇・二五)

円銀及兌換券の引換高幾何に達すべきや

工業の現状を論じて工場条例に及ぶ

農工銀行の運用に就て当局者に望む

金融繁緩の原因に就て

我国海運業の現在及将来(三)

金融繁緩の原因に就て

#### 第七〇号 (明三・一〇・二五)

新事業に対する警戒を怠る勿れ

金利の引上は物価を下落せしむるの力ありや

日本銀行の金利に就て

保管倉庫整備の必要(上)

我国海運業の現在及将来(四)

正貨果して取付けらるべき乎

#### 第七一号 (明三・一一・二五)

本月の金融市場 附中央銀行金利引

上後に於ける各銀行の姿勢如何  
台灣幣制の将来を憂ふ

通貨増加の趨勢

如何にして歳入の不足額を補填  
すべきや (上)〔西内青藍〕

再び保險会社の合同に就て  
保管倉庫整備の必要 (下)

第七二号 (明三・二・二五)

。創刊二周年に際して

通貨、資本、物価及金利

信用の濫用を大に慎むべし

如何にして歳入の不足額を補填す  
べきや (下)〔西内青藍〕

第七三号 (明三・二・二五)

。地租問題

保証準備増加説に就て

正貨流出の期近きに在らん

綿業の不振は世界の大勢なり

鐵道業の現状一斑 (一)〔原田駒  
之助〕

第七四号 (明三・二・二五)

本月の金融市場 (如何にして歳末

の難関を経過すべきか)

。外資輸入と物価騰貴

外資輸入の最良法

石代の倍加は益々地租の公平を失  
するものなり

本邦綿業者困難の真相及其将来如  
何 (上)

貯蓄奨励の好時機

第七五号 (明三・二・二五)

姑息の救済は寧ろ之を自然に放任  
するの優れるに如かず

。内国債償還策全国商業會議所の聯  
合會議に上る

地方債益々増加せん

本邦綿業者困難の真相及其将来如  
何 (下)

鐵道業の現状一斑 (二)〔原田駒  
之助〕

第七六号 (明三・二・二五)

。經濟界救済策

我国に眞の同盟罷工なし

如何にして勸業債券を募集すべき  
や

鐵道業の現状一斑 (三)〔原田駒  
之助〕

は如何)

明治三十一年度の歳計予算

速かに台灣の幣制を確定せよ

明治三十年經濟小史 (其の一)

第七八号 (明三・二・二五)

今後の金融

井上新大蔵大臣

。通信事業の収入は之を通信事業の  
外に使用す可からず

最近數年間我国外国貿易の進歩 (一)

明治三十年經濟小史 (其の二)

第七九号 (明三・二・二五)

本月の金融市場

西園寺新文部大臣に望む

酒稅増加の好結果

最近數年間我国外国貿易の進歩 (続)

外資輸入の眞目的

大に細民の貯蓄を奨励すべし

明治三十年經濟小史 (其の三)

第八〇号 (明三・二・二五)

中央銀行の利子引上は今回に止ま  
らざるべし

酒稅は宜しく増徴すべし地租は断  
じて増徴すべからず

外資輸入は何れの場合に於ても金

利を低廉ならしむべきや

補助貨は果して増発の余地なきか  
再び通信事業の収入に就て  
新関税法の実施と本年の輸入貿易  
台湾鉄道の速成を望む  
明治三十年経済小史(其の四)

#### 第八一号 (明三・三・五)

帝国の財政を紊乱するものは台湾  
なり

当局者は知らず識らずの間に台湾  
に銀貨制度を施行しつつあり

清国債金問題

清国製造業の前途附東華紡績会社  
を再興すべし

一切の煙草専売権を政府に於て有  
すべし〔西内青藍〕

金貨交換高の増加に就て

通信事業の現状(上)

#### 第八二号 (明三・三・五)

本月の金融市場

一円券引上、補助貨増発に関する

諸問題

中央財政と地方財政

何ぞ補助貨の増発を憂へん

通信事業の現状(中)

#### 第八三号 (明三・三・五)

東洋の貨幣制度は結局金貨本位に

帰着すべし

貿易の逆勢必ずしも憂ふるに足ら  
ず

小農の保護附り農工銀行経営の方

針如何

物価は容易に下落せざるべし

通信事業の現状(下)

#### 第八四号 (明三・三・五)

日本銀行は如何にして五月以後の

貸出資金を準備すべきか

再び補助貨増発の必要を論ず

観業債券には幾何の応募者あるべ  
きや

今月の輸入超過は大に将来の輸出

を増加する所以なり

通信事業の渋滞(豈に独り経費の  
不足にのみ因らんや)

#### 第八五号 (明三・四・三)

本月の金融市場

台湾は帝国の一部か將た殖民地か

台湾は断じて銀貨地となすべから  
ず

当局者は如何に引換円銀を処分す

べきや

金利引上げは我国に於て欧米程の  
効果なし附如何にして金融を緩  
和ならしむべき

再び地方財政の前途を論ず(上)

#### 第八六号 (明三・四・三)

井上伯の財政計画

円銀引換の不便

物価は何故に下落せざるか

再び地方財政の前途を論ず(下)

#### 第八七号 (明三・四・三)

日本銀行の金利を論ず

皆済債金と経済社会

政府の経済社会救済策

救済法実施の結果如何

酒精及酒類の輸入何ぞ其れ多きや

#### 第八八号 (明三・五・三)

本月の金融市場

政府の勸業債券引受策を論ず

不景氣と物価の騰貴とは両立すべ  
きや

米西開戦と我輸出入貿易

酒精及酒類の輸入何ぞ其れ多きや

(続)

第八九号 (明三・五・二五)

如何にして米価騰貴の勢を抑ゆ可きや

財政整理と經濟社会救済策

鐵道買上論と公債償還論

外國貿易の逆勢 附正貨準備の補填策如何

米価の前途

綿絲紡績業者の答申書を読む

×米価の騰貴を以て物価騰貴の一大原因となすの謬を詰す

増税問題

岩崎總裁の演説を評す

紡績会社は須らく其事業の基礎を鞏固にすべし

正貨流出熄むの期近きに在らん

本年度の追加予算

第九〇号 (明三・五・二五)

増税問題

岩崎總裁の演説を評す

紡績会社は須らく其事業の基礎を鞏固にすべし

正貨流出熄むの期近きに在らん

本年度の追加予算

第九一号 (明三・六・五)

増税問題

岩崎總裁の演説を評す

紡績会社は須らく其事業の基礎を鞏固にすべし

正貨流出熄むの期近きに在らん

本年度の追加予算

第九二号 (明三・六・二五)

増税問題

岩崎總裁の演説を評す

紡績会社は須らく其事業の基礎を鞏固にすべし

第九二号 (明三・六・二五)

重ねて政府の増税案を論ず

断じて国債償還を停止せよ

航海奨励法の改正に就て

地租を存続せんと欲せば地価修正を断行すべし (西内青藍)

米國財政の現況を叙して製茶課税問題に及ぶ

第九三号 (明三・六・二五)

本邦地租の真相

地租宜しく改革す可し

本邦倉庫の欠点を論じて其の改良策に及ぶ (其の一)

綿絲輸出の好況永続すべきや

新関税法の実施は明年一月以後に在り

鐵道工事の中止断じて非なり

第九四号 (明三・七・二五)

本邦地租の真相

地租宜しく改革す可し

本邦倉庫の欠点を論じて其の改良策に及ぶ (其の一)

綿絲輸出の好況永続すべきや

新関税法の実施は明年一月以後に在り

鐵道工事の中止断じて非なり

第九五号 (明三・七・二五)

本邦地租の真相

地租宜しく改革す可し

本邦倉庫の欠点を論じて其の改良策に及ぶ (其の一)

綿絲輸出の好況永続すべきや

新関税法の実施は明年一月以後に在り

鐵道工事の中止断じて非なり

第九五号 (明三・七・二五)

鐵道国有問題を如何に解釈すべきや

如何にして金融逼迫を救ふべきや

物価果して大に下落すべきや

本年上半期間の外國貿易

兵庫倉庫会社の破綻

倉庫事業と火災保險事業の關係を改良すべし

第九六号 (明三・七・二五)

鐵道の買上断じて非なり

通信事業の収入は宜しく之を増加すべからず

担保割引は金融切迫の一大原因なり (上)

蟲害予防の訓令を読む

本邦倉庫業の欠点を論じて其改良策に及ぶ (其の三)

第九七号 (明三・八・二五)

本邦地租の真相

地租宜しく改革す可し

本邦倉庫の欠点を論じて其の改良策に及ぶ (其の一)

綿絲輸出の好況永続すべきや

新関税法の実施は明年一月以後に在り

鐵道工事の中止断じて非なり

第九八号 (明三・八・二五)

本邦地租の真相

地租宜しく改革す可し

本邦倉庫の欠点を論じて其の改良策に及ぶ (其の一)

綿絲輸出の好況永続すべきや

新関税法の実施は明年一月以後に在り

鐵道工事の中止断じて非なり



輸出税の廢止は断じて之を延期すべからず

我國の財源は将来何に由らしむべきや

横神両港の貿易と其の陸上設備

### 第九八号 (明三・八・二五)

財源の撰択に迷う勿れ

台灣幣制の前途

勸業銀行に質す (債券募集法及其貸付法に就きて)

輸入超過最早永續せざるべし

紡績業の振興策如何

東京市と市内鉄道問題

### 第九九号 (明三・八・二五)

通信事業は特別會計とするの必要なし

台灣銀行の成立果して如何

公債買入停止と金利引下とは同時に  
行わるべきや

再び消費組合に就て

。地租問題に關して浜口雄幸君に答ふ

### 第一〇〇号 (明三・九・二五)

本月の金融市場

鐵道買上は金融を緩和すべきや

天野爲之先生雜誌掲載論文目錄 (一)

。新たに免役税を課す可きの議

金融の将来

今後の通貨及物価

東京經濟雜誌記者の杜撰

### 第一〇一号 (明三・九・二五)

。何ぞ現役免除税を起さざるや (再び)

地租増徴論者のために一策を進む

如何にして清國貿易を拡張すべき  
勸業銀行は何故に農業を疎外するや

本邦紡績事業の現況

### 第一〇二号 (明三・九・二五)

。地租問題の一段落

經濟学の主要を中学生徒に教ゆる  
の議

工場法制定の程度如何

新聞稅法実施の影響 (上)  
本邦紡績事業の現況 (承前)

### 第一〇三号 (明三・一〇・二五)

本月の金融市場

。如何にして歳入の不足を補填す可き

台灣鐵道と京釜鐵道

新聞稅法実施の影響 (下)

金融の将来

地租の事に付三たび浜口君に答ふ

### 第一〇四号 (明三・一〇・二五)

。日本銀行課稅論

保証準備拡張の程度如何

本邦銀行業發達の狀態 (其一)  
工場法案を評す

宅地租壳業稅の増加に代る可き財  
源如何

### 第一〇五号 (明三・一〇・二五)

。世の富豪に告ぐ

岩崎時代の日本銀行

憲政大會に望む  
日米貿易の前途

本邦銀行發達の狀態 (承前)  
我國工業組織の狀態 (上)

### 第一〇六号 (明三・一二・二五)

本月の金融市場附制限外兌換券再

び増加せば如何

外資輸入の要否及其方法  
夜業休止問題

十五銀行の改革に就て  
官制改正の發表

我國工業組織の狀態 (中)



第一〇七号 (明三・二・二五)

創刊三周年に際して

日本銀行の課税をして一般経済社

会に負担せしむる勿れ

速かに夜業休止を断行せよ

修正工場法案を読む

我国鉄道業の発達 (其一)

第一〇八号 (明三・二・二五)

。独占税を論ず

工業銀行設立の議を排す

我国工業組織の状態 (下)

我国鉄道業の発達 (其二)

第一〇九号 (明三・三・二五)

本月の金融市場 (歳末の金融は幸

に無事なるべし)

保証準備拡張問題

地租増税案の運命如何

我国鉄道業の発達 (其三)

第一一〇号 (明三・三・二五)

。日本銀行の課税は発行税を可とす

予算概論

三政府の歳入補填策附自由派憲政

党の歳入補填策

。所得税法改正法律案を難す

東京馬車鉄道賃引上問題に就て  
我国鉄道業の発達 (其四)

第一一一号 (明三・三・二五)

日本銀行課税の方法に就て

日本銀行納付金法律案を難す

衆議院は地租増徴案を通過せり

台湾の独立自営終に望む可らざる

か

貿易の順潮附正貨は何故に流出せ

るや

第一一二号 (明三・一・二五)

明治三十二年の金融

重ねて日本銀行課税法を論ず

鉄道国有の論拠何ぞ薄弱なる

農業會議所条例を制定すべし

第一一三号 (明三・一・二五)

補填後の歳入補填策

当局者のために別に歳入填補の一

策を進む

償金残額の使途に就て

噸税法案を論ず

昨年の外国貿易

第一一四号 (明三・二・二五)

歳入補填の最良法

動産銀行の利害如何  
速かに航海奨励の方針を確立すべ

し

興業銀行外二銀行に就て

郵便税引上の無謀

生糸貿易の盛況果して永続すべき

や

第一一五号 (明三・二・二五)

蓋ぞ一千七百万円の公債を焼かざ

る

台湾事業公債法案を賛す

台湾銀行と銀券発行

農工債券と勸業銀行

鉄道賃金の引上断じて非なり

第一一六号 (明三・三・二五)

興業銀行論の根本的誤謬

議員歳費問題

鉄道国有調査会は無用なり

預金利子引下に就て

第五回勸業博覧会は大阪に開くべ

し

肥料取締の急務

第一一七号 (明三・三・二五)

償金残額処分決定

特別航路助成案

動産銀行は無用なり  
興業銀行と外資輸入  
鉄道賃金引上の無謀  
関税に関する紛議益々甚しからんとす

#### 第一一八号 (明三・三・二五)

今後の金融  
三基金の形体如何  
償金使途問題の落着  
政府は私設鉄道の賃金引上を如何にせんとするか  
外国貿易の好望  
内地雜居に対する覚悟如何

#### 第一一九号 (明三・三・二五)

支那に版權制度を布くの策  
京釜鐵道と京仁鐵道  
第一三帝國議會の経過 (其一) 予算問題  
今後に於ける通貨と物価の關係

#### 第一二〇号 (明三・四・二五)

日本銀行は此際奮て支店を増設すべし  
内地雜居後に於ける外国人  
第一三帝國議會の経過 (其二) 増税問題

葉煙草の輸入を一少数者の手に委託すとは真乎  
銀行合同の時期  
再び私設鉄道賃金引上の不当を論ず

#### 第一二一号 (明三・四・二五)

再び發行余力の使用法に就て  
外国貿易の一頓挫  
第一三帝國議會の経過 (其三) 其他の財政問題  
燃料石油を石炭に代用するの議  
外国人の來住を自由にすべし

#### 第一二二号 (明三・四・二五)

金融の前途  
三基金は須らく本邦公債を以て保存すべし  
第一三帝國議會の経過 (其四) 関税問題  
北浜銀行の營業月報に就て  
加奈太製茶課税問題

#### 第一二三号 (明三・五・二五)

銀行は此際奮て營業の基礎を固むべし  
三基金と金融市場の關係  
第一三帝國議會の経過 (其五) 銀

行問題  
公債騰貴の原因如何

#### 第一二四号 (明三・五・二五)

再び支那に版權制度を布くの策を論ず  
飽くまで外国債を募集すべし  
勸業債券募集の不結果  
外金輸入  
第一三帝國議會の経過 (其六) 其他の財政問題

#### 第一二五号 (明三・五・二五)

速に東京市内鐵道問題を決定すべし  
戦後の誤解を再びする勿れ  
物価の前途  
通信事業の現状 (其一)

#### 第一二六号 (明三・六・二五)

外債募集の影響如何  
対物信用は果して銀行の常道にあらざるか  
政府は果して予期の関税収入を得べきや  
鉄道賃金引上の結果  
通信事業の現状 (其二)